

講習の名称	【選択必修】 教育相談における今日的課題の解決方法を考える	講習番号	B-2
開催日	平成29年8月7日(月)	定員	80名
主な受講対象者	小学校教諭、中・高等学校教諭		
担当講師	崔玉芬(経済学部専任講師)・石崎ちひろ(経済学部専任講師)		
講習の概要	学校における教育相談の実践のための理論と技法を学習するうえで、子ども理解、学級経営のために必要な知識と方法について把握する。具体的には、いじめ・不登校などに関する諸問題が生じている学校現状を押さえるとともに、教育心理学、教育経営学の視点から、教師に求められる教育相談に必要な実践力を身につけるための基礎知識を学ぶ。		
講習計画	09:00～10:30 (90分)	教育相談の政策動向 教育相談に関する政策動向の変遷とその際の狙いについての理解を深める。特に、学校での組織的対応が求められる背景と、そもそも組織とは、どのようなものであるのか考える視点を提示する。	
	10:30～10:45	休憩	
	10:45～11:45 (60分)	教育相談における組織的対応(グループディスカッション) 教育相談を円滑に実行していくための学校組織的対応について、受講生相互の経験およびさまざまな事例を参照しながら、グループディスカッションを通して理解を深める。	
	11:45～12:15 (30分)	試験 筆記試験を行います。	
	12:15～13:00	昼食休憩	
	13:00～14:30 (90分)	子どもの変容と問題行動への対応 児童生徒が抱える発達と教育上の様々な困難、問題について考える。同時にそれらの問題の解決、援助の方法に関する知識を身につける。	
	14:30～14:45	休憩	
	14:45～15:45 (60分)	心理的成長を促し問題を未然に防ぐ心理教育 心理教育の意義、心理教育プログラムについて考える。さらに、心理教育プログラムを体験することによって、教師に求められる教育相談に必要な実践力を身につける。	
	15:45～16:15 (30分)	試験 筆記試験を行います。	
	16:15～16:25	事後評価アンケート	
	成績評価の観点	(1)個別対応的に指導するだけでなく、今日求められる学校組織の連携協力について理解を深められているかを評価の観点とする。 (2)児童生徒の問題行動に対する援助方法について理解しているかどうかを評価の観点とする。	
	備考		